

平成28年1月21日

## 事業経過報告書

文部科学省初等中等教育局長 殿

都道府県教育委員会等名 福岡県教育委員会  
 所在地 福岡県福岡市博多区東公園7番7号  
 代表者職氏名 教育長 城戸 秀明

平成27年度英語教育強化地域拠点事業における事業経過報告書を提出します。

## 1. 事業の実施期間

委託を受けた日 ～ 平成28年3月31日

## 2. 強化地域拠点の学校名 (学校数が多い場合は欄を追加すること)

ふりがな	ふくおかけんりつのおがたこうとうがっこう	ふりがな	かみかわ あきら
学校名	福岡県立直方高等学校	校長名	上川 明
ふりがな	ふくおかけんりつくらてりゅうとくこうとうがっこう	ふりがな	よしまる まさあき
学校名	福岡県立鞍手竜徳高等学校	校長名	吉丸 昌明
ふりがな	みやわかしりつみやわかにしちゅうがっこう	ふりがな	しばた たかゆき
学校名	宮若市立宮若西中学校	校長名	柴田 孝行
ふりがな	みやわかしりつかさまつしょうがっこう	ふりがな	いけだ よしとも
学校名	宮若市立笠松小学校	校長名	池田 義智
ふりがな	みやわかしりつわかみやしょうがっこう	ふりがな	もうり ゆうこ
学校名	宮若市立若宮小学校	校長名	毛利 祐子
ふりがな	みやわかしりつやまぐちしょうがっこう	ふりがな	くろだ ひでお
学校名	宮若市立山口小学校	校長名	黒田 英生
ふりがな	みやわかしりつわかみやにししょうがっこう	ふりがな	やまだ のぶこ
学校名	宮若市立若宮西小学校	校長名	山田 伸子
ふりがな	みやわかしりつよしかわしょうがっこう	ふりがな	しおかわ えいじ
学校名	宮若市立吉川小学校	校長名	塩川 英治

## 3. 研究内容

## (1) 研究開発課題

小学校における英語教育の早期化・教科化及び中・高等学校における教育目標・内容の高度化を図る小・中・高等学校の一貫した教育課程の編成及び指導・評価方法等の工夫改善に関する実践研究

## (2) 研究の概要

- ①小学校英語教育の早期化・教科化のための教育課程の編成及び指導方法等の工夫改善
- ・第1, 2学年における週2コマの外国語活動、第3, 4学年における週2コマの外国語活動
  - 第5, 6学年における週2コマの教科英語の実施。
  - ・中・高等学校の目標を踏まえた学習到達目標（CAN-DO形式）及び指導計画の作成。
- ②中学校英語教育の高度化のための教育課程の編成及び指導方法等の工夫改善
- ・4技能を統合化する言語活動を英語で進める授業の実施。
  - ・小学校及び高等学校の英語教育を踏まえた4技能に係る学習到達目標（CAN-DO形式）及び指導計画の作成。
- ③高等学校英語教育の高度化のための教育課程の編成及び指導方法等の工夫改善
- ・4技能を統合化する言語活動を英語で進める授業の実施。
  - ・小・中学校の英語教育を踏まえた学習到達目標（CAN-DO形式）及び指導計画の作成。

## (3) 現状の分析と仮説等

- ①現状の分析と研究の目的
- 中学校3年生及び高等学校3年生に求められる英語力を有する本県の生徒の割合は、国の指標よりも10ポイント以上低い。その原因として、授業を英語で進めている中・高等学校英語教員の割合、授業における言語活動の割合が40%に満たない現状にあると考える。
- 宮若市の中学校においても、英検3級以上取得又はそれに相当する英語力を有する生徒は20パーセント足らずで国の目標値である50パーセントとは大きな開きがある。また、授業における教員の英語使用率も50パーセント以下の状況である。
- 宮若市の小学校においては、モジュールを活用した学習は全く実施されておらず、外国語活動の学習にICT機器の活用も十分でない。
- そこで、小学校においては英語教育の早期化・教科化及び中・高等学校においては英語の授業を言語活動中心で、英語で進める授業へと改善し、英検取得率など求められる英語力に到達した児童生徒の割合を現在よりも10ポイント以上高めることを目標とする。
- ②研究仮説
- 小学校においては英語教育の早期化・教科化及びモジュールを活用した学習を45分を単位とした学習と効果的に組み合わせて指導を工夫すること、中・高等学校においては教育目標・内容の高度化について、小・中・高等学校が一貫して教育課程を編成し、指導・評価方法等の工夫改善に取り組み、児童生徒の英語によるコミュニケーション能力が高まるであろう。
- ③研究成果の評価方法
- 英検 Jr.や英検 IBA など外部専門機関との連携による評価
  - 作成した学習到達目標（CAN-DO形式）を用いた評価
  - 英語でコミュニケーションを図ることに対する意識調査

(4) 研究開発型 ※平成27年度新規採択件については、平成26年度は斜線を引く

	開始学年及び週当たり授業時数コマ			
	第一年次 (H26)	第二年次 (H27)	第三年次 (H28)	第四年次 (H29)
①小学校 外国語活動型	第 1 学年 1 コマ	第 1～4 学年 1 コマ	第 1～4 学年 2 コマ	第 1～4 学年 2 コマ
②小学校 教科型	第 5 学年 2 コマ	第 5・6 学年 2 コマ (第 5 学年は 1 コマは外国語活 動型で実施)	第 5・6 学年 2 コマ	第 5・6 学年 2 コマ

(5) 研究計画 ※平成27年度新規採択件については、第一年次から第三年次まで記載すること。

第一年次～第四年次、校種別

○第一年次

研究構想の具体化と授業実践、指定校間での合同研修会の定例化を図る。

①小学校

- ・ Hi, friends や Hi, friends との関連を図った独自教材を開発・活用し、第 1 学年から第 4 学年まで週 1 コマの外国語活動を実施。
- ・ 文科省作成の補助教材を活用し、第 5, 6 学年で週 2 コマの教科英語を実施。
- ・ 研究構想、中・高等学校英語教員の支援を基に学習到達目標 (CAN・DO 形式) 試作版、指導計画、児童意識調査の作成。

②中学校

- ・ 4 技能を統合化する言語活動を英語で進める授業の実施。
- ・ 研究構想、4 技能に係る一貫した学習到達目標 (CAN・DO形式) 試作版、指導計画、生徒意識調査の作成。

③高等学校

- ・ 4 技能を統合化する言語活動を英語で進める授業の実施。
- ・ 研究構想、4 技能に係る一貫した学習到達目標 (CAN・DO形式) の改善と指導計画、生徒意識調査の作成。

④小・中・高等学校での合同研修会

- ・ 研究構想、学習到達目標 (CAN・DO 形式) 及び指導計画、児童生徒意識調査の作成のための合同研修会の実施。
- ・ 互いの教材のプレゼンテーションなど指導方法や評価方法についての学習会の実施。
- ・ 児童生徒理解のための合同研修会の実施。

○第二年次

9 年間を見通した独自の指導計画に基づく授業を実践し、公開授業及び研究成果の中間報告会を実施する。

①小学校

- ・ Hi, friends や独自教材を修正・活用し、第 1 学年から第 4 学年まで週 2 コマの外国語活動を実施。
- ・ 文科省作成の補助教材を活用し、第 5, 6 学年で週 2 コマの教科英語を実施。

- ・研究構想、中・高等学校の目標を踏まえた学習到達目標（CAN-DO形式）、指導計画の修正。

②中学校

- ・言語活動を中心とし、英語で進める授業の実施。
- ・4技能を統合化する言語活動の実施。
- ・研究構想、小学校の外国語活動及び教科英語を踏まえた学習到達目標（CAN-DO形式）の作成、指導計画の修正。

③高等学校

- ・言語活動を中心とし、英語で進める授業の実施。
- ・4技能を統合化する言語活動の実施。
- ・研究構想、小学校及び中学校の英語教育を踏まえた学習到達目標（CAN-DO形式）、指導計画の修正。

④小・中・高等学校での合同研修会

- ・学習到達目標（CAN-DO形式）及び指導計画の作成のための合同研修会の実施。
- ・互いの教材のプレゼンテーションなど指導方法や評価方法についての学習会の実施。

○第三年次

研究構想に基づく授業を実践し、公開授業及び研究成果の発表会を実施する。

①小学校

- ・独自の指導計画に基づき、第1学年から第4学年まで週2コマの外国語活動を実施。
- ・文科省作成の補助教材を活用し、第5, 6学年で週2コマの教科英語を実施。
- ・研究構想、中・高等学校の目標を踏まえた学習到達目標（CAN-DO形式）、指導計画の修正。

②中学校

- ・言語活動を中心とし、英語で進める授業の実施。
- ・4技能を統合化する言語活動の実施。
- ・研究構想、小学校の外国語活動及び教科英語を踏まえた学習到達目標（CAN-DO形式）、指導計画の修正。

③高等学校

- ・言語活動を中心とし、英語で進める授業の実施。
- ・4技能を統合化する言語活動の実施。
- ・研究構想、小学校及び中学校の英語教育を踏まえた学習到達目標（CAN-DO形式）、指導計画の修正。

④小・中・高等学校での合同研修会

- ・研究成果を広げるための研究発表会の実施。
- ・研究成果を広げるための手引書作成のための研究会の実施。

○平成27年度の進捗状況・課題

【進捗状況】

①小学校

・独自教材の開発・活用

◇モジュール学習については、チャンツCDの活用を行い、絵カードを作成し、活用している。「今月の歌」では、掲示用の歌詞カード・絵カードを準備している。教材は、研究担当者会で

開発・作成し、各学校に配布している。

◇1 単位時間の授業については、単元の学習内容に応じて、学習する英単語の絵カード・ワークシートを作成している。また、市販の絵本を活用し、授業の終末に読み聞かせを行っている。

・高学年における補助教材の活用・教科英語の実施

◇補助教材「Hi friends Plus」の活用については、カリキュラムの中に位置付け、1 単位時間やモジュール学習で計画的に活用できるように明記して実践を行っている。

②中学校

・4 技能を統合化する言語活動を英語で進める授業の実施

◇文部科学省の調査結果〈表 1〉から、本年度英語担当教員全員が授業の半分以上を英語で授業を進めていることがわかる。さらに、H 2 6 年度の結果と比較すると、英語で進める授業を意識した授業改善が進んでいると考えられる。

◇単元の中にタスク活動を設定し、4 技能を統合化する言語活動を仕組んだ授業実践を行っている。文部科学省の調査結果〈表 2〉から、今年度授業に占める言語活動の割合が増えていることがわかる。タスク活動を設定することで、ペアワークやグループワークを通じた生徒同士のやりとりを行う時間が増えたと考えられる。

〈表 1〉

教員の英語使用率	該当する英語担当教員数					
	1 年		2 年		3 年	
	H 2 6	H 2 7	H 2 6	H 2 7	H 2 6	H 2 7
7 5 %程度以上		2		1		1
5 0 %程度以上～ 7 5 %程度未満		3				
5 0 %程度未満	4		1		1	

〈表 2〉

授業に占める言語活動の時間の割合	該当する英語担当教員数					
	1 年		2 年		3 年	
	H 2 6	H 2 7	H 2 6	H 2 7	H 2 6	H 2 7
7 5 %程度以上		2		1		1
5 0 %程度以上～ 7 5 %程度未満		3				
5 0 %程度未満	4		1		1	

《英語教育実施状況調査[文部科学省]》

③高等学校

・言語活動を中心とし、英語で進める授業の実施

◇1 2 月、1 月に授業研修を実施し、言語活動を中心とし、英語で進める授業づくりを始めたところである。

④小・中・高等学校共通

・CAN-DO リスト、指導計画、生徒意識調査の作成

◇小学校第 1 学年～第 6 学年、中学校第 1 学年～第 3 学年、高等学校第 1 学年～第 3 学年までの CAN-DO リストの作成を行っている。

◇小学校第1学年～第6学年のカリキュラム、モジュールプラン作成・再編成を研究担当者会で行っている。カリキュラムについては、単元のゴールを設定し、場面設定を重視したコミュニケーション活動を取り入れて再編成している。

◇小・中学校用意識調査のための調査用紙を宮若市教育委員会で作成した。研究担当者会で検討を行った後、本年度2回実施（6月・12月）を行っている。

◇高等学校では、那珂川地域の連携高等学校と協力して意識調査を作成し、意識調査を実施することができた。

#### 【課題】

##### ①小学校

- 第1学年～第4学年の年間70時間分のカリキュラム開発が必要である。
- 効果的な文字指導の在り方について、今後も研究を進めていく必要がある。

##### ②中学校

- 作成したCAN-DOリストを生かした年間指導計画の作成が必要である。

##### ③高等学校

- 4技能を統合化する言語活動について研修し、生徒の実態に合わせ実施する必要がある。
- 教科部会を定例化し、手立ての共有、重点化等を図る必要がある。
- 小学校及び中学校との接続を考え、CAN-DOリストを修正する必要がある。
- CAN-DOリストを生かした年間指導計画の作成が必要である。

##### ④小・中・高等学校共通

- 系統性を持たせた指導を行うために、CAN-DOリスト・指導計画等のさらなる見直しが必要である。
- CAN-DOリストの内容を児童・生徒へ具体的に提示することで、理解の状況を児童・生徒自身が把握できるような指導方法の工夫改善が必要である。

(6) 評価計画 ※平成27年度新規採択件については、第一年次から第三年次まで記載すること。

#### 第一年次～第三年次、校種別

##### ○第一年次

##### ①小学校

- ・英検 Jr.など外部専門機関との連携による評価
- ・英語でコミュニケーションを図ることに対する意識調査

##### ②中学校

- ・英検 IBA など外部専門機関との連携による評価
- ・作成した学習到達目標を用いた評価
- ・英語でコミュニケーションを図ることに対する意識調査

##### ③高等学校

- ・英語能力判定テストなど外部専門機関との連携による評価
- ・作成した学習到達目標を用いた評価
- ・英語でコミュニケーションを図ることに対する意識調査

##### ○第二年次

##### ①小学校

- ・英検 Jr.など外部専門機関との連携による評価

- ・作成した学習到達目標を用いた評価
- ・英語でコミュニケーションを図ることに対する意識調査

## ②中学校

- ・英検 IBA など外部専門機関との連携による評価
- ・作成した学習到達目標を用いた評価
- ・英語でコミュニケーションを図ることに対する意識調査

## ③高等学校

- ・英語能力判定テストなど外部専門機関との連携による評価
- ・作成した学習到達目標を用いた評価
- ・英語でコミュニケーションを図ることに対する意識調査

## ○第三年次

## ①小学校

- ・英検 Jr. など外部専門機関との連携による評価
- ・作成した学習到達目標を用いた評価
- ・英語でコミュニケーションを図ることに対する意識調査

## ②中学校

- ・英語 IBA など外部専門機関との連携による評価
- ・作成した学習到達目標を用いた評価
- ・英語でコミュニケーションを図ることに対する意識調査

## ③高等学校

- ・英語能力判定テストなど外部専門機関との連携による評価
- ・作成した学習到達目標を用いた評価
- ・英語でコミュニケーションを図ることに対する意識調査

## ○平成27年度の進捗状況・課題

## 【進捗状況】

## ①小学校

・英検 Jr. (Bronze) を実施（6月《第6学年対象》）

◇平均正答率 81%

分野	語句	会話	文章
正答率	81%	80%	80%

・児童意識調査の実施（6月《第6学年対象》、12月《第5・6学年対象》）

◇設問「英語の学習は好きですか」に対して、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した児童を合わせた割合

実施時期	宮若市	全国※
平成27年6月	71.6%	70.9%
平成27年12月	80.5%	

※全国の数値は、「平成26年度小学校外国語活動実施状況調査」による数値

◇設問「英語の学習は大切だと思いますか」に対して、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した児童を合わせた割合

実施時期	宮若市	全国※
平成27年6月	85.7%	85.3%
平成27年12月	94.4%	

② 中学校

・英検 IBA を実施（6月《第2年学年対象》／ 実用英語技能検定（1月実施予定）

◇英検級レベル分布

英検級レベル	4級以上	4級レベル	5級レベル	5級受検レベル
割合	3.0%	16.2%	65.7%	15.2%

◇分野別平均正答率

分野	語彙・熟語・文法	読解	リスニング
正答率	66.7%	54.2%	60.8%

《英検 IBA 6月結果》

・生徒意識調査の実施（7月、12月《第1・2・3学年》）

◇設問「英語の学習は好きですか」に対して、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した児童を合わせた割合

実施時期	第1学年		第2学年	
	宮若市	全国※	宮若市	全国※
平成27年6月	67.8%	61.6%	24.0%	50.3%
平成27年12月	60.3%		54.6%	

◇設問「英語の学習は大切だと思いますか」に対して、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した児童を合わせた割合

実施時期	第1学年		第2学年	
	宮若市	全国※	宮若市	全国※
平成27年6月	93.4%	77.7%	74.0%	75.8%
平成27年12月	88.0%		84.8%	

【課題】

① 小学校

- 作成した CAN-DO リストを活用したパフォーマンス評価の実施方法について検証が必要である。

② 中学校

- 作成した CAN-DO リストを活用したパフォーマンス評価の実施方法についてさらなる検証が必要である。また、小学校からの円滑な接続を意識した評価規準の見直しを行っていく。

③ 小・中学校共通

- 来年度、同時期（6月・12月）に児童生徒意識調査・外部試験を行うことで、児童生徒の意識や英語力の変容を継続的に分析することが重要である。さらに、実態把握を通して実践内容の有効性について検証し、指導方法の改善につなげる必要がある。

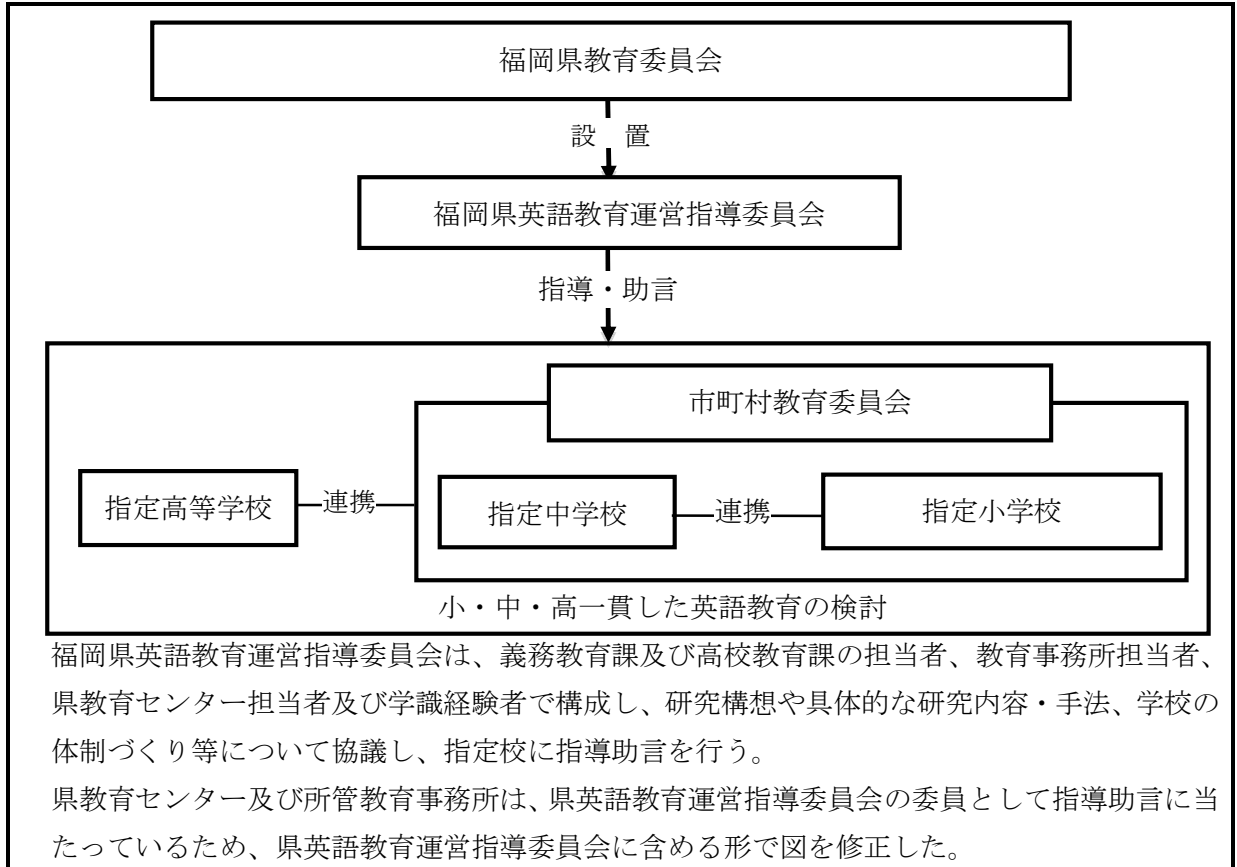


## ④高等学校

- 2月末にパフォーマンステストなどを実施するとともに、来年度は6月・12月に生徒意識調査・パフォーマンステストを実施する。
- 中学校からの円滑な接続を意識し、CAN-DO リストの見直しを行っていく。

## 4. 研究組織

## (1) 研究組織の概要



## (2) 運営指導委員会

## ①活動計画

## ○活動計画

年2回運営指導委員会の指導による連絡協議会を開催し、研究構想や具体的な研究内容・方法、学校の体制づくりなどについて協議し、研究指定校に指導助言を行う。

## ・ 第1回連絡協議会（7月末）

研究組織の目標、活動内容の共通理解、研究構想の検討、指導体制の確認、1年次の授業実践における重点の確認、小・中・高合同研修会の内容等の確認、CAN-DO リストについての共通理解

## ・ 第2回連絡協議会（12月初）

研究体制の確認、公開授業を基に1年次の研究の重点の具体化、小・中・高合同研修会の定例化に向けた会の在り方の検討、CAN-DO リストについての確認

## ○平成27年度の進捗状況・課題

## 【進捗状況】

- ◇7月末に開催した第1回連絡協議会を通して、小・中学校においては、研究組織の目標、活動内容の共通理解、研究構想の検討、指導体制の確認、1年次の授業実践における重点の確認、小・中・高合同研修会の内容等の確認、CAN-DO リストについての共通理解を図ることができた。
- ◇12月初めに開催した第2回連絡協議会を通して、公開授業を基に1年次の研究の重点の具体化を図り、CAN-DO リストのモデル作成、小・中・高合同研修会の定例化に向け、校長同士で連絡を取り合って日程調整を行う等の研究体制づくりを進めることができた。

## 【課題】

- 主管教育事務所や県教育センター指導主事による直接指導の機会を増やす。

## 5. 年間事業計画

月	強化地域拠点の取組	運営指導委員会
4月	<ul style="list-style-type: none"> <li>●各小学校において校内研修会（今年度の計画確認、モジュール実施方法の共通理解）</li> <li>○小学校：1～5年での外国語活動の実施、5，6年での教科英語の実施</li> <li>○中・高等学校：英語で進める授業の実施</li> <li>○小学校：指導体制の整備</li> </ul>	
5月	<ul style="list-style-type: none"> <li>●第1回担当者会</li> <li>研究組織の目標、活動内容の共通理解、児童生徒の実態の共通理解、研究の方向性の確認</li> <li>●若宮西小学校校内研修会</li> <li>○中・高等学校：言語活動中心の授業実施</li> </ul>	
6月	<ul style="list-style-type: none"> <li>●第1回合同研修会</li> <li>授業研修会（若宮小学校）と協議会、児童生徒の実態の共通理解</li> <li>●若宮西小学校・宮若西中学校授業研修会</li> <li>●第2回担当者会</li> <li>各学校の実施状況報告、児童・生徒の意識調査項目検討</li> <li>○小学校：授業の充実</li> <li>○中・高等学校：4技能を統合化する言語活動の実施</li> <li>○「みやわか教師塾」における実践発表（モジュール学習について）</li> <li>○英検 Jr. ・英語 IBA 実施。（小6，中2）</li> <li>○児童生徒意識調査（小6，中1，中2，中3）</li> </ul>	
7月	<ul style="list-style-type: none"> <li>●第1回県連絡協議会（宮若市にて開催）</li> </ul>	第1回県英語教育連絡協議会

	<p>●第3回、第4回担当者会 研究進捗状況確認、5, 6年生のカリキュラム作成に向けて確認</p> <p>●若宮小学校 【指導助言 鹿児島純心女子大学教授】</p> <p>●宮若西中学校授業研修会 ●若宮西小学校・山口小学校・吉川小学校校内研修会 ●宮若市外国語教育指導者研修会</p> <p>○小学校：クラスルームイングリッシュの改善 ○中・高等学校：4技能を統合化する言語活動の充実</p>	<p>研究組織、研究構想、指導体制、1年次の重点、小・中・高合同研修会、学習到達目標の検討</p>
8月	<p>●第5回担当者会 5, 6年生のカリキュラム、モジュールカリキュラム、音声教材、CAN-DO リストの作成</p> <p>●若宮小学校・笠松小学校校内研修会</p> <p>○小学校：独自教材の整備、児童意識調査の作成。 ○中・高等学校：学習到達目標（CAN-DO 形式）の作成</p>	
9月	<p>●第6回担当者会 5, 6年生のカリキュラム作成、1～4年生のカリキュラム作成に向けて確認</p> <p>●宮若西中学校教科部会 ●若宮小学校・山口小学校授業研修会・若宮西小学校授業研修会</p> <p>●吉川小学校校内研修会 ●第2回合同研修会 【指導助言 鹿児島純心女子大学教授】 授業研修会（宮若西中学校）と協議会</p> <p>●北九州市教育委員会視察受け入れ</p> <p>○小学校：独自教材を活用した授業の充実 ○中・高等学校：学習到達目標を活用した評価と指導</p>	
10月	<p>●第7回担当者会 先進校視察研修の報告、5, 6年生のカリキュラム作成</p> <p>●若宮小学校授業研修会 【指導助言 県義務教育課指導主事】</p> <p>●宮若西中学校授業研修会、教科部会 ●若宮西小学校校内研修会 ●滋賀県近江八幡市行政視察受け入れ</p> <p>○直島町立直島小中学校視察 ○岡崎市立本宿小学校視察</p>	

11月	<ul style="list-style-type: none"> <li>●第8回担当者会 先進校視察研修の報告、5, 6年生のカリキュラム作成、1～4年生の使用言語材料、系統性の確認</li> <li>●若宮小学校授業研修会 【指導助言 北九州教育事務所指導主事】</li> <li>●若宮西小学校・山口小学校授業研修会</li> <li>●笠松小学校・山口小学校校内研修会</li> <li>●第3回合同研修会 【指導助言 県義務教育課指導主事】 授業研修会（宮若西中学校）と協議会、研究の方向性の確認、CAN-DO リストの確認</li> <li>●第4回合同研修会 授業研修会（笠松小学校）と協議会、研修の方向性の確認</li> <li>○小学校：評価を意識した授業の実施</li> <li>○中・高等学校：学習到達目標を活用した評価と指導の充実</li> </ul>	
12月	<ul style="list-style-type: none"> <li>●第2回県連絡協議会（那珂川町にて開催）</li> <li>●第9回担当者会 県連絡協議会の報告、1～6年生のカリキュラム、モジュールカリキュラム作成</li> <li>●若宮小学校・吉川小学校授業研修会</li> <li>●若宮西小学校・山口小学校校内研修会</li> <li>●宮若西中学校教科部会</li> <li>●鞍手竜徳高等学校にて連携高等学校研修会</li> <li>○小学校：評価を意識した授業の充実</li> <li>○中・高等学校：学習到達目標を活用した評価と指導の充実</li> <li>○児童生徒意識調査（小5, 小6, 中1, 中2, 中3）</li> </ul>	第2回県英語教育連絡協議会 研究体制、1年次の研究の重点、小・中・高合同研修会、学習到達目標について検討
1月	<ul style="list-style-type: none"> <li>●第10回担当者会 第5回合同研修会について確認、1～6年生のカリキュラム、モジュールカリキュラム作成</li> <li>●山口小学校授業研修会</li> <li>●若宮小学校・若宮西小学校校内研修会</li> <li>●鞍手竜徳高等学校にて小中高合同研修会</li> <li>●直方高等学校にて小中高合同研修会</li> <li>○実用英語検定実施（中2）</li> <li>○意識調査（直方高等学校、鞍手竜徳高等学校）</li> <li>○小学校：学習到達目標を活用した評価と指導の実施</li> <li>○中・高等学校：学習到達目標を活用した評価と指導の充実</li> <li>○大田区立入新井第五小学校視察</li> <li>○奈良市立平城西中学校区視察</li> </ul>	

2月	<p>●第11回担当者会 全国連絡協議会・先進校視察の報告、1～6年生のカリキュラム、モジュールカリキュラム作成</p> <p>●若宮小学校・若宮西小学校・山口小学校校内研修会</p> <p>●第5回合同研修会 【指導助言 鹿児島純心女子大学教授】</p> <p>授業研修会（若宮小学校）と協議会、次年度の方向性確認</p> <p>○小学校：学習到達目標を活用した評価と指導の充実</p> <p>○中・高等学校：学習到達目標を活用した評価と指導の充実</p>	
3月	<p>●第12回担当者会 次年度の方向性を基に研究体制、研究構想、合同研修会の持ち方の検討、学習到達目標の修正、カリキュラムの作成</p> <p>●若宮小学校・若宮西小学校・山口小学校校内研修会</p> <p>○小学校：学習到達目標を活用した評価と指導の充実</p> <p>○中・高等学校：学習到達目標を活用した評価と指導の充実</p> <p>○手引書作成・配布（カリキュラム、評価計画、教材リスト、指導案等）</p>	
<p>【その他の取組】※あれば記入</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>平成26年度から、英語科・英語活動カリキュラム作成委員会を設置し、小・中が連携した年間指導計画の作成及び時数確保のための教育課程の見直しを行った。27年度より実施する準備はできている。</li> <li>平成27年度には、市教育委員会内に教育改革推進のための指導班（課長級1名、指導主事2名）を新設し、英語教育の強化に対応する。</li> <li>宮若西中学校と若宮小学校は平成28年4月に施設一体型小中一貫教育校として校舎新築となる。施設一体型の特徴を生かして、英語教育を軸にした特色ある一貫教育の推進を行う。施設一体型以外の4小学校についても、施設分離型の一貫教育を推進する。</li> <li>小・中・高等学校において、放課後や夏期休業中に、児童生徒がALTと英語でコミュニケーションを図ることができる場（英語サロン）を開設。とりわけ、平成28年度に開校予定の施設一体型の小中一貫教育校においてはイングリッシュゾーンの設置等の工夫をし、日常的に英語に触れることができるようにする。</li> </ul>		

平成28年1月21日

## 事業経過報告書

文部科学省初等中等教育局長 殿

都道府県教育委員会等名 福岡県教育委員会  
 所在地 福岡県福岡市博多区東公園7番7号  
 代表者職氏名 教育長 城戸 秀明

平成27年度英語教育強化地域拠点事業における事業経過報告書を提出します。

## 1. 事業の実施期間

委託を受けた日 ～ 平成28年3月31日

## 2. 強化地域拠点の学校名 (学校数が多い場合は欄を追加すること)

ふりがな	ふくおかけんりつちくしちゅうおうこうとうがっこう	ふりがな	はやの ゆうこ
学校名	福岡県立筑紫中央高等学校	校長名	早野 祐子
ふりがな	なかがわちょうりつなかがわみなみちゅうがっこう	ふりがな	はしづめ ふみひろ
学校名	那珂川町立那珂川南中学校	校長名	橋爪 文博
ふりがな	なかがわちょうりつあんたくしょうがっこう	ふりがな	たかお みすず
学校名	那珂川町立安德小学校	校長名	高尾 美鈴
ふりがな	なかがわちょうりつみなみはたしょうがっこう	ふりがな	いのうえ しんいちろう
学校名	那珂川町立南畑小学校	校長名	井上 信一郎
ふりがな	なかがわちょうりついわとしょうがっこう	ふりがな	おくむら あきお
学校名	那珂川町立岩戸小学校	校長名	奥村 明男
ふりがな	なかがわちょうりつあんたくみなみしょうがっこう	ふりがな	かぶ かずこ
学校名	那珂川町立安德南小学校	校長名	加峰 和子

## 3. 研究内容

## (1) 研究開発課題

小学校における英語教育の早期化・教科化及び中・高等学校における教育目標・内容の高度化を図る小・中・高等学校の一貫した教育課程の編成及び指導・評価方法等の工夫改善に関する実践研究

## (2) 研究の概要

- ①小学校英語教育の早期化・教科化のための教育課程の編成及び指導方法等の工夫改善
- ・第1, 2学年における学期に1～4コマの外国語活動、第3, 4学年における週0.5～1コマの外国語活動、第5, 6学年における週1～2コマの教科英語の実施。
  - ・中・高等学校の目標を踏まえた学習到達目標 (CAN・DO形式) 及び指導計画の作成。

②中学校英語教育の高度化のための教育課程の編成及び指導方法等の工夫改善

- ・ 4 技能を統合化する言語活動を英語で進める授業の実施。
- ・ 小学校及び高等学校の英語教育を踏まえた 4 技能に係る学習到達目標（CAN-DO形式）及び指導計画の作成。

③高等学校英語教育の高度化のための教育課程の編成及び指導方法等の工夫改善

- ・ 4 技能を統合化する言語活動を英語で進める授業の実施。
- ・ 小学校及び中学校の英語教育を踏まえた学習到達目標（CAN-DO 形式）及び指導計画の作成。

(3) 現状の分析と仮説等

①現状の分析と研究の目的

中学 3 年生及び高校 3 年生に求められる英語力を有する本県の生徒の割合は、国の指標よりも 10 ポイント以上低い。その原因として、授業を英語で進めている中・高等学校英語教員の割合、授業における言語活動の割合が 40%に満たない現状にあると考える。

そこで、小学校における英語教育早期化・教科化及び中・高等学校においては英語の授業を言語活動中心で、英語で進める授業へと改善し、英検取得率など求められる英語力に到達した児童生徒の割合を現在よりも 10 ポイント以上高めることを目標とする。

②研究仮説

小学校英語教育の早期化・教科化及び中・高等学校の教育目標・内容を高度化について、小・中・高等学校が一貫して教育課程の編成、指導・評価方法等を工夫改善に取り組めば、児童生徒の英語コミュニケーション能力は高まるであろう。

③研究成果の評価方法

- 児童英検や英語能力判定テストなど外部専門機関との連携による評価
- 作成した学習到達目標を用いた評価
- 英語でコミュニケーションを図ることに対する意識調査

(4) 研究開発型 ※平成 27 年度新規採択件については、平成 26 年度は斜線を引くこと。

安徳南小学校（中心小学校）

	開始学年及び週当たり授業時数コマ			
	第一年次 (H26)	第二年次 (H27)	第三年次 (H28)	第四年次 (H29)
①小学校 外国語活動型	第 1 学年 0. 2 コマ	第 1 学年 0. 09 コマ 第 2 学年 0. 3 コマ 第 3,4 学年 1 コマ	第 1 学年 0. 2 コマ 第 2 学年 0. 3 コマ 第 3,4 学年 1. 3 コマ	第 1 学年 0. 2 コマ 第 2 学年 0. 3 コマ 第 3,4 学年 1. 3 コマ
②小学校 教科型	第 5,6 学年 2 コマ	第 5,6 学年 2 コマ	第 5,6 学年 2 コマ	第 5,6 学年 2 コマ

## 安徳小学校

	開始学年及び週当たり授業時数コマ			
	第一年次 (H26)	第二年次 (H27)	第三年次 (H28)	第四年次 (H29)
① 小学校 外国語活動型	第 学年 コマ	第 1,2 学年 0. 3コマ 第 3,4 学年 0. 4コマ	第 1,2 学年 0. 5コマ 第 3,4 学年 1コマ	第 1,2 学年 0. 5コマ 第 3,4 学年 1コマ
② 小学校 教科型	第 学年 コマ	第 5,6 学年 1. 3コマ	第 5,6 学年 2コマ	第 5,6 学年 2コマ

## 南畑小学校

	開始学年及び週当たり授業時数コマ			
	第一年次 (H26)	第二年次 (H27)	第三年次 (H28)	第四年次 (H29)
① 小学校 外国語活動型	第 学年 コマ	第 1 学年 0. 09コマ 第 2 学年 0. 1コマ 第 3,4 学年 0. 4コマ	第 1 学年 0. 09コマ 第 2 学年 0. 1コマ 第 3,4 学年 1コマ	第 1 学年 0. 09コマ 第 2 学年 0. 1コマ 第 3,4 学年 1コマ
② 小学校 教科型	第 学年 コマ	第 5 学年 1. 6コマ 第 6 学年 1. 1コマ	第 5,6 学年 2コマ	第 5,6 学年 2コマ

## 岩戸小学校

	開始学年及び週当たり授業時数コマ			
	第一年次 (H26)	第二年次 (H27)	第三年次 (H28)	第四年次 (H29)
① 小学校 外国語活動型	第 学年 コマ	第 1 学年 0. 2コマ 第 2 学年 0. 3コマ 第 3,4 学年 1コマ	第 1 学年 0. 2コマ 第 2 学年 0. 3コマ 第 3 学年 1コマ 第 4 学年 2コマ	第 1 学年 0. 2コマ 第 2 学年 0. 3コマ 第 3 学年 1コマ 第 4 学年 2コマ
② 小学校 教科型	第 学年 コマ	第 5 学年 1コマ 第 6 学年 2コマ	第 5,6 学年 2コマ	第 5,6 学年 2コマ

(5) 研究計画 ※平成27年度新規採択件については、第一年次から第三年次まで記載すること。

第一年次～第三年次、校種別

○第一年次

研究構想の具体化と授業実践、指定校間での合同研修会の定例化を図る。

①小学校

- ・ Hi, friends!や独自教材を活用し、第1学年から第4学年まで、それぞれの学年に合わせた時間数での外国語活動を実施。
- ・ 文科省作成の補助教材を活用し、第5, 6学年で週1～2コマの教科英語を実施。
- ・ 研究構想、中・高等学校英語教員の支援をもとに学習到達目標 (CAN-DO 形式) 試作版、



指導計画、児童意識調査の作成。

②中学校

- ・ 4 技能を統合化する言語活動を英語で進める授業の実施。
- ・ 研究構想、4 技能に係る一貫した学習到達目標（CAN-DO形式）試作版、指導計画、生徒意識調査の作成。

③高等学校

- ・ 4 技能を統合化する言語活動を英語で進める授業の実施。
- ・ 研究構想、4 技能に係る一貫した学習到達目標（CAN-DO形式）の改善と指導計画、生徒意識調査の作成。

④小・中・高等学校での合同研修会

- ・ 研究構想、学習到達目標（CAN-DO 形式）及び指導計画、児童生徒意識調査の作成のための合同研修会の実施。
- ・ 互いの教材のプレゼンテーションなど指導方法や評価方法についての学習会の実施。
- ・ 児童生徒理解のための合同研修会の実施。

○第二年次

研究構想に基づく授業を実践し、公開授業及び研究成果の中間報告会を実施する。

①小学校

- ・ Hi, friends!や独自教材を活用し、第1学年から第4学年まで週1コマ～学期に数回の外国語活動を実施。
- ・ 文科省作成の補助教材を活用し、第5，6学年で週1～2コマの教科英語を実施。
- ・ 研究構想、中・高等学校の目標を踏まえた学習到達目標（CAN-DO形式）、指導計画の修正。

②中学校

- ・ 言語活動を中心とし、英語で進める授業の実施。
- ・ 4 技能を統合化する言語活動の実施。
- ・ 研究構想、小学校の外国語活動及び教科英語を踏まえた学習到達目標（CAN-DO形式）の作成、指導計画の修正。

③高等学校

- ・ 言語活動を中心とし、英語で進める授業の実施。
- ・ 4 技能を統合化する言語活動の実施。
- ・ 研究構想、小学校及び中学校の英語教育を踏まえた学習到達目標（CAN-DO形式）、指導計画の修正。

④小・中・高等学校での合同研修会

- ・ 学習到達目標（CAN-DO 形式）及び指導計画の作成のための合同研修会の実施。
- ・ 互いの教材のプレゼンテーションなど指導方法や評価方法についての学習会の実施。

○第三年次

研究構想に基づく授業を実践し、公開授業及び研究成果の発表会を実施する。

①小学校

- ・ Hi, friends ! や独自教材を活用し、第1学年から第4学年まで週1コマの外国語活動を実施。
- ・ 文科省作成の補助教材を活用し、第5，6学年で週1～2コマの教科英語を実施。
- ・ 研究構想、中・高等学校の目標を踏まえた学習到達目標（CAN-DO形式）、指導計画の修正。

## ②中学校

- ・言語活動を中心とし、英語で進める授業の実施。
- ・4技能を統合化する言語活動の実施。
- ・研究構想、小学校の外国語活動及び教科英語を踏まえた学習到達目標（CAN-DO形式）、指導計画の修正。

## ③高等学校

- ・言語活動を中心とし、英語で進める授業の実施。
- ・4技能を統合化する言語活動の実施。
- ・研究構想、小学校及び中学校の英語教育を踏まえた学習到達目標（CAN-DO形式）、指導計画の修正。

## ④小・中・高等学校での合同研修会

- ・学習到達目標（CAN-DO形式）及び指導計画の作成のための合同研修会の実施。
- ・互いの教材のプレゼンテーションなど指導方法や評価方法についての学習会の実施。

## ○平成27年度の進捗状況・課題

## 【進捗状況】

## ①中心小学校

・独自教材の開発・活用、高学年における補助教材の活用・教科英語の実施

◇第1～4学年は独自教材を活用し、それぞれの学年に合わせた時間数で、外国語活動を実施した。

学年	第1学年	第2学年	第3学年	第4学年
年間実施時数	3時間	10時間	22時間	35時間

◇第5、6学年はHi, friends!や補助教材を活用し、週に2コマの外国語科を実施した。文部科学省作成の補助教材を活用し、アルファベットの文字認識、日本語と英語の音声の違いやそれぞれの特徴についての指導を行った。

学年	第5学年	第6学年
年間実施時数	70時間	70時間

◇教員の指導力・英語力向上のための校内研修を定期的の実施し、研修時間に短時間ではあるが、クラスルーム・イングリッシュを中心とする英語運用能力の向上を目指した研修を継続して行った。

・CAN-DOリスト、指導計画、生徒意識調査の作成

◇外国語担当者による児童意識調査を実施した。

◇年間指導計画、CAN-DOリストの試作版の作成を行った。

・合同研修会、担当者会

◇月に1回の小学校担当者の研修を実施し、各学校の実施状況を報告や教材の相談、発表を行うことができた。

◇第2回県連絡協議会において授業を公開した。

第5学年外国語科「マイレストランメニューをつくろう」(Hi, friends! 2 Lesson 9活用)

参加校：安徳南小学校、安徳小学校、岩戸小学校、南畑小学校、那珂川南中学校

筑紫中央高等学校、若宮小学校、若宮西中学校、鞍手竜徳高等学校、直方高等学校  
指導助言：福岡教育大学教授、鹿児島純心女子大学教授

◇小学校研修部会を2学期から月に1回定期的に実施した。

実施日：9月24日、10月2日、11月20日、12月18日

参加者：安徳小学校、岩戸小学校、南畑小学校、安徳南小学校外国語担当者、  
町教育委員会、ALT派遣会社コーディネーター

内容：各学校の実施状況を報告や教材の相談、発表、CAN-DOリストの検討

## ②その他の3小学校

・独自教材の開発・活用、高学年における補助教材の活用・教科英語の実施

◇第1, 2学年においては年間3時間、第3, 4学年においては年間16時間、第5, 6学年においては35時間+隙間の時間にHi, friends! Plusの文字指導を実施した。

◇第1～4学年は他校の年間指導計画を参考にして「Hi, friends!」をもとに実践し、年間指導計画の付加・修正を行うとともに、教材・教具を補充、整理、保管している。

◇Hi, friends! Plusのプリントアウト・配布・活用の仕方について共通理解を図った。

・合同研修会、担当者会

◇月1回の小学校担当者会で各学校の実践や教材・教具の情報交換ができています。

◇夏期研修会として、那珂川南中ブロックの小中学校合同にて、「英語科になったら何かが変わるのか」などのテーマで講話を聞いた。

◇3学期、1月に教育センターの資料を基に、職員研修を開く予定である。

## ③中学校

・4技能を統合化する言語活動を英語で進める授業の実施

◇リスニングを通してテーマをつかませ、スピーチに取り組みさせるなど、4技能を統合化した活動のアイデアはもっている。

・CAN-DOリスト、指導計画、生徒意識調査の作成

◇研究構想、学習到達目標（CAN-DO形式）試作版を作成している。

◇生徒意識調査は作成し、実態調査を行った。

・合同研修会、担当者会

・小・中・高での合同研修会は実施している。授業を参観し、協議会を持っている。  
また、それぞれの学校の実践について報告し、交流を図っている。

## ④高等学校

・言語活動を中心とし、英語で進める授業の実施

◇11月に小・中・高合同研修会を開催し、授業を公開した。言語活動を中心とし、英語で進める授業づくりを実施している。

・CAN-DOリスト、指導計画、生徒意識調査の作成

◇CAN-DOリストについては、既に作成しており、修正に取りかかっている。

◇県教育委員会の情報提供を基に、意識調査を作成し、意識調査を実施することができた。

## 【課題】

## ①中心小学校

- 単元終末に児童にとって必然性のあるコミュニケーション活動を設定したが、語彙や表現が増え、児童にとって負担が大きい単元があった。本年度の教材を基に、児童の実態にあうものに改善していく必要がある。
- 発達段階や学習内容に即して、「読むこと」「書くこと」への慣れ親しみを図る教材の開発活用を行っていく必要がある。
- 中学校へ円滑に移行できるよう、学年の系統性を踏まえた各学年の単元計画の見直しを行う。
- 小学校研修部会だけでなく、小中研修部会を定期的実施し、中学校との連携を図ることができるようにしていく。

## ②その他3小学校

- 安徳南小、県教育委員会から提示されたカリキュラムを基に、系統性に配慮したカリキュラムを作成する。
- 月に一度、小学校担当者会などで共通確認し、3月中には来年度の第1～4学年までの指導内容・方法と第5，6学年のHi, friends! Plusの指導内容・方法を確定させる。
- 小学校担当者会で検討中のCAN-DOリストを作成する必要がある。
- CAN-DOリストにともなう、年間指導計画を立てる必要がある。

## ③中学校

- 英語で進めることには改善が必要である。
- 教科部会を定例化し、手立ての共有、重点化等を図る必要がある。
- 小学校及び高等学校との接続を考え、CAN-DOリストを修正する必要がある。
- CAN-DOリストにともなう、年間指導計画を立てる必要がある。

## ④高等学校

- 4技能を統合化する言語活動について研修し、生徒の実態に合わせ実施する必要がある。
- 教科部会を定例化し、手立ての共有、重点化等を図る必要がある。
- 小学校及び中学校との接続を考え、CAN-DOリストを修正する必要がある。
- CAN-DOリストにともなう、年間指導計画を立てる必要がある。

(6) 評価計画 ※平成27年度新規採択件については、第一年次から第三年次まで記載すること。

## 第一年次～第三年次、校種別

## ○第一年次

## ①小学校

- ・児童英検など外部専門機関との連携による評価
- ・英語でコミュニケーションを図ることに対する意識調査

## ②中学校

- ・英語能力判定テストなど外部専門機関との連携による評価
- ・作成した学習到達目標を用いた評価
- ・英語でコミュニケーションを図ることに対する意識調査

## ③高等学校

- ・英語能力判定テストなど外部専門機関との連携による評価
- ・Can-Do リストに基づく評価の作成
- ・英語でコミュニケーションを図ることに対する意識調査

## ○第二年次

## ①小学校

- ・児童英検など外部専門機関との連携による評価
- ・作成した学習到達目標を用いた評価（3～6年）
- ・英語でコミュニケーションを図ることに対する意識調査

## ②中学校

- ・英語能力判定テストなど外部専門機関との連携による評価
- ・Can-Do リストに基づく学習到達目標を用いた評価
- ・英語でコミュニケーションを図ることに対する意識調査

## ③高等学校

- ・英語能力判定テストなど外部専門機関との連携による評価
- ・Can-Do リストに基づく学習到達目標を用いた評価
- ・英語でコミュニケーションを図ることに対する意識調査

## ○第三年次

## ①小学校

- ・児童英検など外部専門機関との連携による評価
- ・作成した学習到達目標を用いた評価（1～6年）
- ・英語でコミュニケーションを図ることに対する意識調査

## ②中学校

- ・英語能力判定テストなど外部専門機関との連携による評価
- ・小中との接続を意識した学習到達目標を用いた評価
- ・英語でコミュニケーションを図ることに対する意識調査

## ③高等学校

- ・英語能力判定テストなど外部専門機関との連携による評価
- ・Can-Do リストに基づく学習到達目標を用いた評価
- ・英語でコミュニケーションを図ることに対する意識調査

## ○平成27年度の進捗状況・課題

## 【進捗状況】

## ①中心小学校

- ・英検 Jr. (Bronze) を実施（9月《第6学年対象》）

平均正答率 85%

分野	語句	会話	文章
正答率	90%	82%	78%

・児童意識調査の実施（9月《第5・6学年対象》／1月末予定）

◇設問「英語の学習は好きですか」に対して、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した児童を合わせた割合

実施時期	那珂川町	全国※
平成27年9月	69%	70.9%

◇設問「英語の学習は大切だと思いますか」に対して、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した児童を合わせた割合

実施時期	那珂川町	全国※
平成27年9月	91%	85.3%

②その他3小学校

◇児童・職員に向けたアンケート調査を実施した。

◇第3～5学年が英検 Jr.を受ける予定である。（南中ブロック統一）

◇連絡協議会における公開授業の参観を通して、1単位時間の学習活動の流れや教師とALTとの役割分担などを参考にすることができた。

◇夏に小・中ブロック地区で行われた外国語活動研修会では、改定の背景や小学校における英語教育改革の必要性について共通理解を図ることができた。

③中学校

◇学習到達目標を用いた評価については、パフォーマンステストを評価する際の観点と関連しているが、十分ではない。

◇第3学年において、英語でコミュニケーションを図ることに対する意識調査を実施した。

・英検IBAを実施（6月《第3学年対象》／1月予定《第1,2学年対象》）

◇英検級レベル分布

英検級レベル	準2級レベル	3級レベル	4級レベル	5級レベル	5級受験レベル
割合	12%	33.2%	31.8%	22.1%	0.9%

・生徒意識調査の実施（9月《第3学年》）

◇設問「英語の学習は好きですか」に対して、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した生徒を合わせた割合

那珂川町	79.1%
------	-------

◇設問「英語の学習は大切だと思いますか」に対して、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した生徒を合わせた割合

那珂川町	78.3%
------	-------

④高等学校

・生徒意識調査の実施（10月《第1,2学年》）

◇設問「英語の学習は好きですか」に対して、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した生徒を合わせた割合

実施時期	第1学年	第2学年
平成27年10月	44%	37%

◇設問「英語の学習は大切だと思いますか」に対して、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した生徒を合わせた割合

実施時期	第1学年	第2学年
平成27年10月	91%	88%

【課題】

①中心小学校

- リスニングテスト及びパフォーマンステストの評価規準、評価、場面、評価方法の在り方を検討していく。

②その他の3小学校

- 中心校での成果を即実践するまでには至っておらず、十分な打合せや準備を行う時間が確保できていない。

③中学校

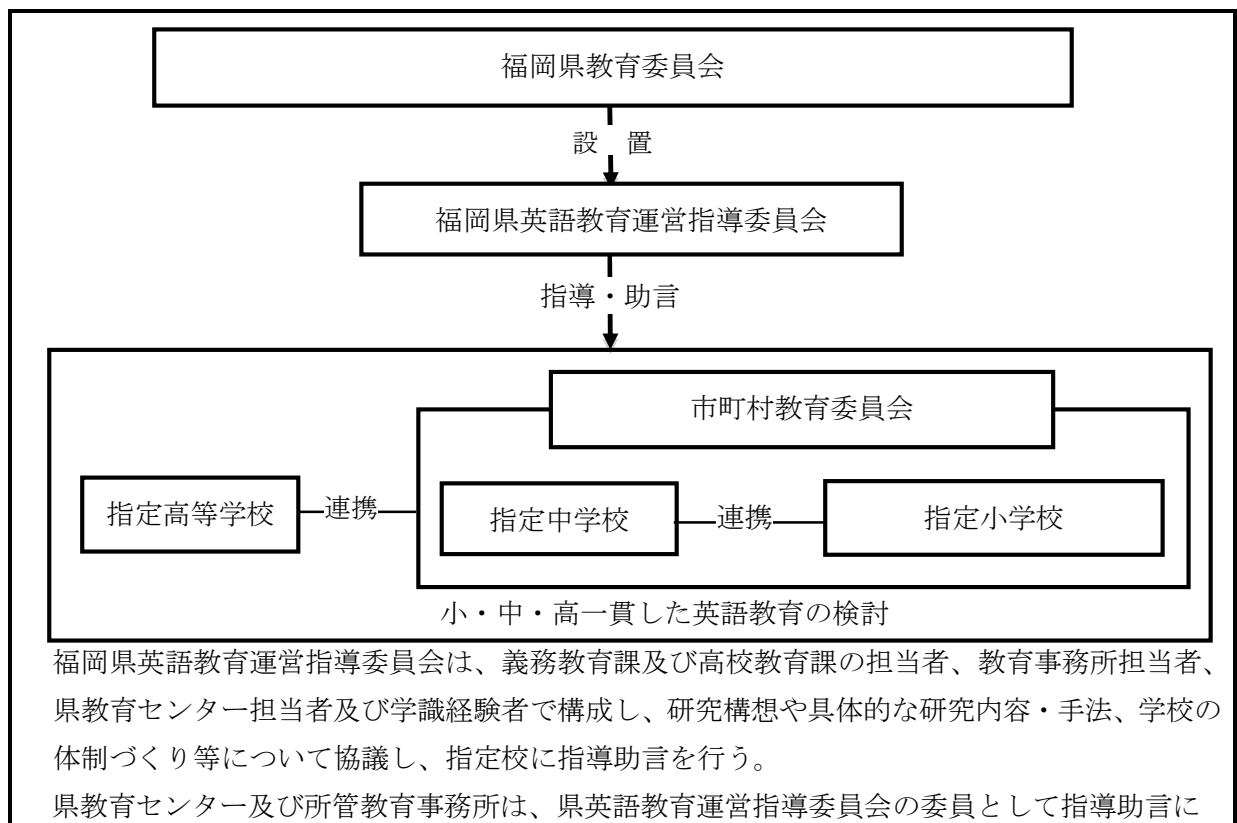
- 学年ごとに授業の内容等は話し合えているが、教科部会は十分に行えていない。  
来年度は時間割の中に教科部会の時間を設定する。

④高等学校

- 定期的にパフォーマンステストを実施するとともに、来年度は6月・12月に生徒意識調査・パフォーマンステストを実施する。

4. 研究組織

(1) 研究組織の概要



あたっていているため、県英語教育運営指導委員会に含める形で図を修正した。

## (2) 運営指導委員会

### ①活動計画

#### ○活動計画

年2回運営指導委員会の指導による連絡協議会を開催し、研究構想や具体的な研究内容・方法、学校の体制づくりなどについて協議し、研究指定校に指導助言を行う。

#### ・第1回連絡協議会（7月末）

研究組織の目標、活動内容の共通理解、研究構想の検討、指導体制の確認、1年次の授業実践における重点の確認、小・中・高合同研修会の内容等の確認、CAN-DO リストについての共通理解。

#### ・第2回連絡協議会（12月初）

研究体制の確認、公開授業を基に1年次の研究の重点の具体化、小・中・高合同研修会の定例化に向けた会の在り方の検討、CAN-DO リストについての確認。

#### ○平成27年度の進捗状況・課題

##### 【進捗状況】

◇7月末に開催した第1回連絡協議会を通して、小・中学校においては、研究組織の目標、活動内容の共通理解、研究構想の検討、指導体制の確認、1年次の授業実践における重点の確認、小・中・高合同研修会の内容等の確認、CAN-DO リストについての共通理解を図ることができた。

◇12月初めに開催した第2回連絡協議会を通して、公開授業を基に1年次の研究の重点の具体化を図り、CAN-DO リストのモデル作成、小・中・高合同研修会の定例化に向け、校長同士で連絡を取り合って日程調整を行う等の研究体制づくりを進めることができた。

##### 【課題】

●主管教育事務所や県教育センター指導主事による直接指導の機会を増やす。

## 5. 年間事業計画

月	強化地域拠点の取組	運営指導委員会
4月	○小学校：1～4年での外国語活動の実施、5，6年での教科英語の実施 ○中・高等学校：英語で進める授業の実施	
5月	○小学校：指導体制の整備 ○中・高等学校：言語活動中心の授業実施 ○全小・中学校英語授業視察（町教委） 小・中学校の英語の授業の現状を把握する。 ○小・中との打合せ（県教育委員会・安徳南小・那珂川南中・町教委）各校の取組、意見交換、質疑応答、指導助言	
6月	○小学校：授業の充実 ○中・高等学校：4技能を統合化する言語活動の実施	



	○タブレット・電子黒板の利用について学校訪問（町教委）	
7月	○小学校：クラスルーム・イングリッシュの充実 ○中・高等学校：4技能を統合化する言語活動の充実 ○他県（広島県）の資料依頼（町教委）	第1回県英語教育連絡協議会 研究概要と研修の進め方、英語強化地域ごとの報告、指導助言
8月	○小学校：独自教材の整備、児童意識調査の作成 ○中・高等学校：学習到達目標（CAN-DO形式）の作成	
9月	●第1回小学校研修部会 教室英語と教材等で困っていること ○安徳南小英語校内研修（他校からも見学） ○県教委指導主事との打合せ（町教委） ○意識調査の実施（安徳南小6年生、那珂川南中3年生） ○英検 Jr.受験（安徳南小6年生） ○英検 IBA 受験（那珂川南中3年生） ○小学校：独自教材を活用した授業の充実 ○中・高等学校：学習到達目標を活用した評価と指導	
10月	○教育事務所中村指導主事との打合せ（町教委） 工程表の説明、カリキュラム作成、合同研修会について ●第1回担当者会（拠点校） 県教委からの今後の進め方、次回連絡協議会の概要 ●第2回小学校研修部会 教材研究、質疑と連絡 ○筑紫中央高校との打合せ（町教委） 工程表の説明、意識調査等の紹介、授業参観 ○意識調査実施（筑紫中央高校1、2年生）	
11月	○沖縄県教育委員会より訪問 安徳南小授業参観、事業説明 ○筑紫中央高校英語授業参観（小・中・町教委参加） ●第1回英語推進委員会 県教委からの今後の進め方、次回連絡協議会の概要 ●第2回担当者会 自ら校内研修を進めるための資料について ●第3回小学校研修部会 各校状況報告、補助教材の活用、意識調査実施（小学校3校）、CAN-DO リストの集約、センター依頼の校内研修実施計画 ○小学校：評価を意識した授業の実施	

	○中・高等学校：学習到達目標を活用した評価と指導の充実	
12月	<ul style="list-style-type: none"> <li>●第4回小学校研修部会</li> <li>    CAN-DO リスト、カリキュラムの検討</li> <li>○小学校：評価を意識した授業の充実</li> <li>○中・高等学校：学習到達目標を活用した評価と指導の充実</li> </ul>	第2回県英語教育連絡協議会 公開授業（安徳南小） 協議1 公開授業、指導 助言 協議2 進捗状況と今後の研究、指導助言
1月	<ul style="list-style-type: none"> <li>●第5回小学校研修部会</li> <li>●第3回合同研修会</li> <li>    学習到達目標による評価結果、意識調査の結果から次年度の方向性確認</li> <li>○小学校：学習到達目標を活用した評価と指導の実施</li> <li>○中・高等学校：学習到達目標を活用した評価と指導の充実</li> </ul>	
2月	<ul style="list-style-type: none"> <li>●第6回小学校研修部会</li> <li>●第6回担当者会</li> <li>    次年度の方向性を基に研究体制、研究構想、合同研修会の持ち方の検討、学習到達目標の修正、指導計画の作成</li> <li>○小学校：学習到達目標を活用した評価と指導の充実</li> <li>○中・高等学校：学習到達目標を活用した評価と指導の充実</li> </ul>	
3月	<ul style="list-style-type: none"> <li>○小学校：学習到達目標を活用した評価と指導の充実</li> <li>○中・高等学校：学習到達目標を活用した評価と指導の充実</li> </ul>	
<b>【その他の取組】</b> 小・中・高等学校において、放課後や夏期休業中に、児童生徒がALTと英語でコミュニケーションを図ることができる場（英語サロン）を開設		